

## The countries I used to live in — 私が住んだことがある国々 —



ブレンダン・ピアス  
Brendan Pierce  
アメリカ出身

暑いですが、皆さん良い夏を過ごしていますか？ 私は松浦での夏をとっても楽しんでます。

今回は、日本に来る前に住んだことがある国々についてお話ししたいと思います。

まず、私はフィジーで生まれました。フィジーは、ニュージーランドの北に位置する人口875,000人の小さな国です。驚くことに、人口の60%が元々のフィジー諸島人で、40%はインドから移り住んだ人々です。フィジー人は、英語、フィジー語、ヒンドゥー語を話します。生活スタイルはとてつゆっくりで、日本で「沖縄タイム」というように、フィジー人には「フィジー・タイム」があり、全てのことについて、決められた時間より遅くなることが多いです。

そのほかにも、私はボツワナに住んだこともあります。ボツワナは砂漠の国です。人々は「モツワナ」と呼ばれ、言語は「セツワナ」と呼ばれます。男性に話かける時はセツワナ語で「こ

んにちは」は、「Dumela-ra(ドゥメララ)」ですが、女性に話しかける時は、「Domela-ma(ドゥメラマ)」が使われます。ボツワナは、地平線まで砂漠に覆われたとても美しい国です。雨が降ると、美しい砂漠の花々が咲きます。

そのほかにも私は、アイルランドに3年間住んだことがあります。アイルランドは年間の60%は雨ですが、晴れた日のアイルランドの景色は無条件に美しいです。最初、アイルランド人の言葉のアクセントに慣れるのに苦労し、人々が何を言っているのかわかりませんでした。しかし、アイルランドの人々はとても愉快で、いつも冗談ばかり言っていました。

また、彼らはお酒に強く、私がアイルランドで最初に飲んだビールは「ギネスビール」で、今でも私のお気に入りです。

では、皆さん、読んでくれてありがとう！



▲ボツワナを旅行した時の私（中央）と私の父（向かって左）と父の友人



## 図書館の おすすめ本

市立図書館  
☎ 0956 - 72 - 4677

松浦市ホームページで  
「松浦市立図書館」を検索



『英国一家、ますます日本を食べる』  
マイケル・ブース/著 寺西のぶ子/訳 亜紀書房

イギリス人フードジャーナリスト一家4人が、日本を縦断した「旅と食の記録」の第2弾。第1弾でカットされた章と番外編の紹介。さらに、日本の読者へのメッセージであるエピローグが加えられています。今回も日本の食と文化を再発見できるかもしれません。



『ぼくはニコテム』  
アニエス・ラロッシュ/文 ステファニー・オグソー/絵 野坂悦子/訳 光村教育図書

気弱な男の子のニコテムは、いつも困ったことがあると「スーパーニコ」に変身する自分を想像します。でも本当は、強くないし大きくない。本当の姿を見つめなおしたニコテムは、それからどんな変身をしたのか。ぜひこの絵本を開いてたしかめてみてください。

### ◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介しします



調川町下免の立石千春さんと百桃ちゃん(3歳)と唯人くん(1歳)

#### 【お気に入りの本】

『ベネロペカズをかぞえる』 アン・グットマン/ぶん  
ゲオルグ・ハレンスレーベン/え、ひがし かずこ/やく 岩崎書店  
『ぎゅうってだいすき』 きむらゆういち/さく、偕成社

#### 【お母さんからひとこと】

最近、夜、子どもの寝かしつけに本を読んでいるので、図書館の本をよく利用しています。子どもが生まれ、4カ月検診を受けた時に、「0歳のころから絵本を読み聞かせてあげるといいですよ」と教えていただき、そのころから本を借りるようになりました。お姉ちゃんはまだ字は読めませんが、写真や絵を見て自分で本を選ぶようになりました。これからも、親子でいろんな本と触れ合いたいと思います。

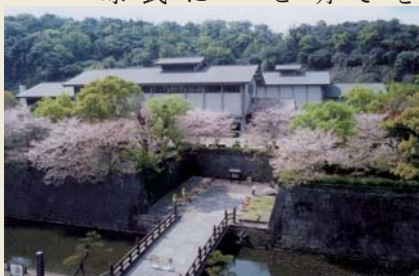
※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしております！

中世の松浦 (66) 鷹島海底遺跡

9月27日(土)から11月3日(月)まで鹿児島県歴史資料センター黎明館において「南からみる中世の世界」〜海に結ばれた琉球列島と南九州〜企画特別展が開催されます。この企画展では、平安時代後期から鎌倉時代、南北朝期に相当する中世前半(11世紀〜14世紀前半)の南九州・琉球列島に視点が置かれ、遺跡および遺跡から出土した貿易陶磁や国内産交易品、当該地域の交易・交渉・支配に関わる歴史史料を手がかりとして、南九州と琉球列島を取り巻く、ひと・もの・文化の交流が紹介されます。さらに、対外交渉や交渉、国内交易の展開を視野に、大宰府鴻臚館跡や博多遺跡群、政治・文化の中心であった京都の平安京条坊跡、鎌倉の若宮大路周辺遺跡群、沖縄の今帰仁城跡、首里城跡など代表的な遺跡と出土品、関連する史料が展示されます。

この特別展には、松浦市から鷹島神崎遺跡出土の「てつほう」・石弾・碇石・冑など館外初の展示を含む17点、松浦火力発電所建設に伴う楼楷田遺跡の発掘調査で出土した貿易陶磁(白磁碗・皿、青磁碗など)・滑石製石鍋など10点を貸出します。この特別展に関しては、鹿児島県歴史資料センター黎明館(鹿児島市城山町)までお問合せ下さい。☎099-222-5100

なお、会期中の10月5日(日)には琉球大学法文学部教授池田榮史氏の「中世南九州とグスク時代の琉球列島」の講演が予定されています。



▲鹿児島県歴史資料センター黎明館外観 (同館提供)

あなたの健康お手伝いします

自分の健康を何で判断しますか??

○問合せ先 健康ほけん課健康推進係 ☎内線 129、168

皆さんは自分が健康であることをどのように判断しますか。

糖尿病や高血圧症などの生活習慣病は自覚症状がありません。それをどうやって見つけたらよいでしょうか。私たちが健診を受けるのは病気がないことを確認して安心するため、病気や身体の異常を早めに見付けて治療するためでしょう。

しかし、健診の目的は病気を見付けるためだけではありません。放っておくと、将来発症する可能性の高い生活習慣病の予防も重要な目的です。

私たちは病気になったことを症状が出たことで知りますが、症状が出る前に判断する方法があります。それが健診データです。健診データは、血圧や血糖値、動脈硬化などの危険性を判断できるものです。

自分の体の中で何が起きているのか、放っておくと将来どのような病気になるのか、予防するためには何をすればよいのか、どこを改善すればデータがよくなるのか。

特定健診を受けた後は、健診データをしっかりと見直し、データの意味することを理解し、生活習慣病などの発症予防に努めましょう。

